

JForest

森林組合だより

令和5年 3月31日

発行

第 143 号



令和4年度 林業講演会

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp

本荘由利森林組合役員選挙執行 23名の役員が決定!

令和5年3月30日（木）任期満了による本組合役員選挙が執行され、理事20名、監事3名が決定しました。

今回の選挙では、理事、監事ともに無投票による当選となりました。任期は3月31日（金）から3年間となります。新役員は下記の通りです。

○理事当選者（届出順）

【第1選挙区（定数4名）

1. 板垣 正昭（再任）由利本荘市一番堰
2. 田口 基（新任）由利本荘市赤田
3. 三浦 功（再任）由利本荘市川口
4. 佐藤 健一（再任）由利本荘市薬師堂

【第2選挙区（西目・仁賀保地区）（定数3名）

1. 鈴木 敏規（再任）にかほ市樋目野
2. 佐藤 勉（再任）にかほ市小国
3. 齋藤惣一郎（再任）にかほ市象潟町

【第3選挙区（矢島地区）（定数2名）

1. 佐藤 勝榮（再任）由利本荘市矢島町田中町
2. 小番 勲（再任）由利本荘市矢島町立石

【第4選挙区（岩城地区）（定数2名）

1. 今野 廣一（新任）由利本荘市岩城内道川
2. 伊藤 修二（再任）由利本荘市岩城滝俣

【第5選挙区（由利地区）（定数2名）

1. 熊谷 典夫（再任）由利本荘市東鮎川
2. 佐々木法夫（再任）由利本荘市五十土

【第6選挙区（鳥海地区）（定数2名）

1. 佐藤 衛（再任）由利本荘市鳥海町栗沢
2. 鈴木 充（再任）由利本荘市鳥海町上笹子

【第7選挙区（東由利地区）（定数2名）

1. 浅田 照信（再任）由利本荘市東由利宿
2. 小松 佳和（再任）由利本荘市東由利田代

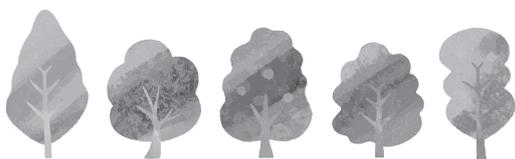
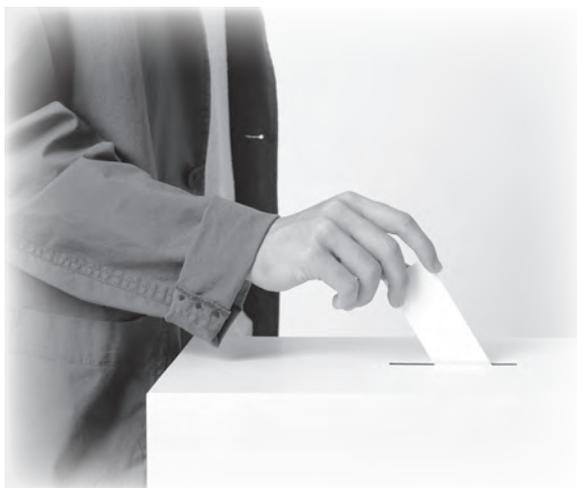
【第8選挙区（大内地区）（定数3名）

1. 小笠原俊彦（再任）由利本荘市大倉沢
2. 小松 幸夫（再任）由利本荘市小栗山
3. 武田 清光（新任）由利本荘市中帳

○監事当選者（届出順）

【全地区】（定数3名）

1. 佐藤 憲一（再任）由利本荘市矢島町七日町
2. 加藤 進（再任）由利本荘市西目町西目
3. 村上佐左衛門（再任）由利本荘市鳥海町才ノ神



第28回 造林コンクール表彰授与式及び林業講演会

- ◆ 最優秀賞 (由利地域振興局長賞)
収穫間伐の部 渡部 専一氏 (岩城地区)
- ◆ 優秀賞 (由利森林管理署長賞)
収穫間伐の部 須藤 進氏 (仁賀保地区)
- ◆ 優良賞 (県森連会長賞)
枝打ちの部 本間 庄一氏 (本荘地区)
- ◆ 入賞 (森林組合長賞)
保育間伐の部 木村 静枝氏 (矢島地区)
収穫間伐の部 嶽石伊久雄氏 (東由利地区)
収穫間伐の部 池田 隆氏 (本荘地区)

※受賞林分の写真は最終ページに掲載しています。



昨年度・一昨年度と新型コロナウイルスの感染拡大により開催を見送っていた造林コンクール表彰授与式及び林業講演会ですが、今年度より再開することとなり、令和5年2月16日(木)に開催されました。今回は3部門6点が入賞し、由利地域振興局長、由利森林管理署長、秋田県森林組合連合会長、本荘由利森林組合長から各賞が授与されました。林業講演会では、秋田県農林水産部林業木材産業課間伐・造林班副主幹の加藤貴志氏より「Jークレジット制度における森林由来クレジットの概要について」と題して講演いただきました。

◆ 審査講評 ◆ (最優秀賞のみ紹介)

今年度の参加件数は8件でいずれも森林所有者の施業意欲が感じられる優れた林分であった。

その中でも最優秀賞受賞林分は、5年ごとの適切な間伐により立木の生育状況がよく、形状も揃っており理想的な林相となっている。林内作業路の配置もよく、適切な採材により、製材・合板・チップと余すことなく利用されているところも高評価につながった。

令和4年度 林業グループ活動実績発表コンクール

本荘由利森林組合林業研究会における一昨年度の発表で、林業の施業集約化に関するいくつかの課題の解決に向けた活動として、森林GIS (Geographic Information System : 地理情報システム) を用いた森林情報の一元管理及び共有化をテーマに掲げ、その第一段階として、会員の所有山林の一部を対象にGPS (Global Positioning System : 全地球測位システム) を用いた境界測量を行い、その結果をパソコン上で表示できるようにするところまでを実施いたしました。

今年度は前回に引き続きスマート林業に関する取り組みを行い、「スマート林業における電子データで管理する山林情報」と題して、境界情報以外についても情報を集積して前回作成した図面と紐づけて管理するための手法を調査・研究し、その内容について発表いたしました。

審査の結果、時代にマッチしたスマート林業に関する取り組みが評価され、当研究会が優秀賞を受賞いたしました。優秀賞受賞グループは9月頃に青森県で開催予定の北海道・東北ブロック大会に出場することになります。

今回参加した各団体の審査結果とテーマは下記の通りです。

- ◎優秀賞…本荘由利森林組合林業研究会
「スマート林業における電子データで管理する山林情報」
- ◎優良賞…FW. OGACHI
「学校林をフィールドとした森林資源循環学習会について」
- ◎次 点…鹿角地方林業後継者連絡協議会
「鹿角地方林業後継者連絡協議会の活動について」



令和4年度 地区座談会 開催

2月2日（木）～7日（火）の期間、3年ぶりに各地区で地区座談会が開催されました。小松組合長の挨拶に続き、参事・各課長が今年度の組合経営状況と、各部門の事業進捗状況等を報告しました。

座談会では組合員の皆様から多数のご質問をいただきましたので、各地区での会の様子も添えていくつかご紹介いたします。

岩城地区

【2月2日・岩城総合支所亀田出張所】

Q、昨年値上がりした木材価格が最近になって下がってきた要因はなにか。

【県からの回答】

A、輸入が停滞していた外材が入ってくるようになり日本国内の在庫が増えてきたことが大きな理由です。

Q、杉の素材生産の今後の増減の見通しはどうか。

A、来年度の住宅着工数は10万戸ほど減るのではないかと予想されており、それに伴い製材品需要が減っていくことになりそうです。それに代わるものを考えていかなければならないでしょう。

Q、ナラ枯れの被害状況はどのようになっているのか。

【県からの回答】
A、面積の把握は難しいのですが、今年度の被害本数は由利管内で約2,600本となつています。毎年の被害状況としては減少傾向にあります。



大内地区

【2月2日・大内公民館】

Q、自身の所有山林の相続後の維持管理に不安があるのだが、今後どのように保有すべきか。

【県からの回答】

A、対象地の環境条件、面積など多面的に捉えた上で判断する必要があると思いますので、一度支所にご相談いただきたい。

Q、調査等でドローンを活用した事例はあるか。

【県からの回答】
A、狭い範囲ですが、県・市の山林で活用例があります。またドローンではありませんが、現在5カ年計画で航空レーザー分析による山林調査の事業を進めています。

Q、山林の意向調査に回答したがその結果についてのようになっているのか。

A、所有者の意向や条件に合致した箇所の事業ついて、由利管内では主に保育間伐が行われています。今後規模が拡大される見通しです。



鳥海地区

【2月3日・紫水館】

Q、製材部門の収益・費用は計画対比で70%台ですが、利益は16.5%となっている。この要因は何なのか。

【県からの回答】

A、20年近く製品単価が変わっていませんでしたが、昨年度あたりからウッドショックの影響で単価が5割以上上がったことが主な要因かと思われます。

Q、鳥海地区は地滑り地帯で災害に結びつくような土地柄だが、何か対策や予防策はないのか。

【県からの回答】

A、確かに鳥海地区は地滑り防止区域や危険地区が多く、県や市でも該当エリアのデータを持っていきます。地滑りを未然に防ぐには区域内の水を外に排除することが非常に大切ですので、一度行政にご相談いただければと思います。



矢島地区

【2月3日・日新館】

Q、皆伐して10年ほど経つ山は再造林助成の対象になるのか。

【県からの回答】

A、再造林助成については現状の森林簿の表記にも関連しますので県との協議が必要です。

Q、西目の製材所では桐の木は扱っているか。

A、秋田市の木材流通センターでは取り扱っています。またまとまった量があれば運搬いたします。

Q、由利本荘市では森林環境譲与税を山林の航空計測に使用しているようだが、そのデータは個人の森林管理にも利用できるものなのか。

A、データの収集事業には5年ほどかかる予定ですが、事業終了後にデータ利用についての説明があるかと思えます。



由利地区

【2月6日・善隣館】

Q、山形県では大型林業機械を使って山林管理を行っているようなのですが、秋田県ではどのような状況なのか。

【県からの回答】

A、秋田県の素材生産量は全国3位となっていますが、5000台の高性能林業機械が導入されていて、150万m³の素材を生産しています。

Q、所有している山の中に減反地があり、現在の地目は原野になっている。現地まで行く道も壊れているような状況だが、そのような場所でも補助申請はできるのか。

A、該当地のデータをお持ちの上、支所へご相談いただきたい。



東由利地区

【2月6日・有鄰館】

Q、近年、再造林が推進されていますが皆伐面積に対してどれくらい割合で再造林されているのか。

A、当組合の直営班が皆伐した箇所については7割ほどの率で再造林されています。国有林はほとんどです。組合員の山についても同様に7割ほど再造林させていただいています。

Q、Jークレジットとはどのようなものなのか。

【県からの回答】

A、木は二酸化炭素の吸収源になるのですが、その機能を可視化してさらに現金化する制度です。日本は2050年までに二酸化炭素の排出量ゼロを目指すカーボンニュートラル宣言をしましたが、どうしても二酸化炭素を排出せざるを得ない企業等はJークレジットを購入して、排出した二酸化炭素と相殺するような仕組みになっています。



本荘地区

【2月7日・市民交流学習センター】

Q、34cm以上の大径木に値段がついていない状況のようだが、どう扱えばいいのか。

A、いい物であればそれなりの値段がつきますが、まとまった量でないと取引されないため、周りを巻き込んで集約化すべきと考えます。

Q、テレビで木材を使った高層建築が普及しているとの報道を見たのだが、秋田県ではどのような見通しとなっているのか。

【県からの回答】

A、県内では木造高層建築は多くありません。高層建築ではないですが、道の駅ふたついは木造耐火建築で建てられており、耐火建築に木材が使われ始めています。

Q、森林環境譲与税は各都道府県の人口に依りて配分されていると聞いたが、都市部には森林が少ないため使いきれずに余るはずだ。森林を守るためには、人口割ではなく、森林の大小に応じた配分をすべきではないか。

【県からの回答】

A、全国から同じような声が出ており、令和5年度の税制改正には間に合いませんでしたが、配分の見直しを政府に対して働きかけています。

仁賀保地区

【2月7日・むらすぎ荘】

Q、組合員の関心が最も高いのは自分の山の立木価格だとは思いますが、現在はどのような状況なのか。

A、コロナ禍以前よりは上がっていますが徐々に下がりはじめています。しかし、従来捨てていた曲りや劣材をラミナに回す等して少しでも組合員に還元できるように努めています。

Q、再造林の助成金はいつまで続くのか。

【県からの回答】

A、令和7年度までは再造林拡大の目標値が設定されているので何らかの支援は続くはずですが、それ以降は未定です。

Q、西目の国道端の松が枯れて壊滅状態だが原因は何か。枯れない松を植えたのではなかったのか。

A、昨年は付近の薬剤散布を行っていませんでした。枯れた原因は何かと思われません。

【市からの回答】

A、来年度に枯れ松を伐採する計画となっています。

【県からの回答】

A、枯れた松は抵抗性のものではなく普通の松を植栽したものです。海水浴場の近くには抵抗性松を植栽してこれには枯れていませんので、抵抗性松の植栽を検討しています。

木材市況情報 (令和5年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 m 当り 価格

樹種	材長 m	径級 cm	1月11日			2月2日			3月2日		
			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	14下	(2,552) 9,190	(2,552) 9,190	(2,552) 9,190	(2,500) 9,000	(2,066) 7,439	(2,427) 8,738			
		16~22	(4,009) 14,433	(3,194) 11,501	(3,605) 12,979	(2,966) 10,679	(2,637) 9,494	(2,875) 10,351			
		24~34	(4,351) 15,665	(3,749) 13,499	(4,151) 14,947	(4,304) 15,495	(3,608) 12,991	(3,946) 14,208	(3,900) 14,041	(3,899) 14,038	(3,899) 14,039
出材量・販売量・販売率			625m ³ (2,250石)・432m ³ (1,555石)・69%			639m ³ (2,300石)・639m ³ (2,300石)・100%			503m ³ (1,810石)・124m ³ (446石)・24%		

1月：常連の量産工場は原木在庫が豊富なことから不参加。その影響で応札なしの物件も久々に出了。単価はやや弱含み。一部若齢木の出品があり、これは安い居所。
2月：2口以外はすべて若齢材だったこともあり、引き合いは弱く単価も弱含み。若齢材以外は横ばい。常連の量産工場が、原木在庫が豊富なことから不参加だったこともあり、今後も弱含みの推移となりそう。
3月：常連の量産工場や地元勢も、製品市況の落ち込みと、荷動きがここに来て一段と悪化していることから参加者は1名と低調。単価も弱含み横ばい。

第28回 造林コンクール受賞林分



最優秀賞 収穫間伐の部
渡部 専一氏



優秀賞 収穫間伐の部
須藤 進氏



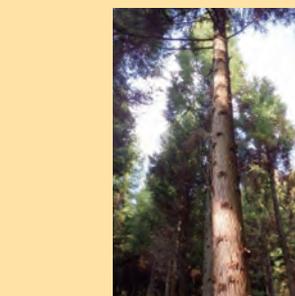
優良賞 枝打ちの部
本間 庄一氏



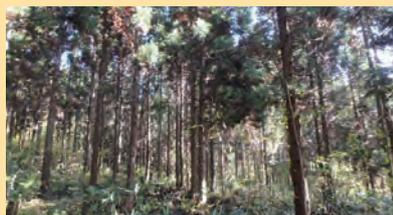
入賞 保育間伐の部
木村 静枝氏



入賞 収穫間伐の部
嶽石 伊久雄氏



入賞 収穫間伐の部
池田 隆氏



森林組合だより 令和五年三月三十一日発行 印刷・濱由利印刷